

日本製鉄グループ内で発生した5件の災害を情報共有します。
類似災害防止に活用下さい。

<日本製鉄グループ災害の概要>

1	8/24	株式会社スチールセンター天竜事業所
・被災者	21歳	生産課
・休業見込	不明	
・傷病名	両掌の火傷、右手首擦傷、背中挫滅創	
・概要	定置溶接機の電源ケーブル結線作業において、結線部に絶縁ケーブルを巻く際にケーブルに両掌が接触し感電した。	
2	9/1	NSMコイルセンター株式会社 関西事業所 大阪製造部
・被災者	61歳	
・休業見込	未定	
・傷病名	アキレス腱断裂	
・概要	リコイラーピット周りで左足を踏み外した。	
3	9/6	PT. INDOJAPAN STEEL CENTER
・被災者	30歳	Production Slitter Line
・休業見込	1週間	
・傷病名	右目瞼切創並びに右眼球打撲	
・概要	スリット加工時のトリムを巻取り機に誘導する際に、トリム先端が跳ね、作業者の右目瞼を切創	
4	9/13	関西製鉄所 和歌山地区
・被災者	41歳	製鉄部 高炉工場
・休業見込	30日	
・傷病名	右足首脱臼骨折	
・概要	デッキ歩行中、仮置きされた濾布降ろし口養生鉄板のズレ止め部を踏み、足を捻った	
5	9/14	日鉄精密加工(株) 本社製造所
・被災者	43歳	(株)カシワラテック
・休業見込	約4週間	
・傷病名	右腓骨骨幹部・遠位端骨挫傷、右足関節前距腓靭帯、踵腓靭帯損傷	
・概要	切粉バツカンを引き出す作業中、切粉バツカンとフォークリフト爪の間で右足首を挟み被災した。	

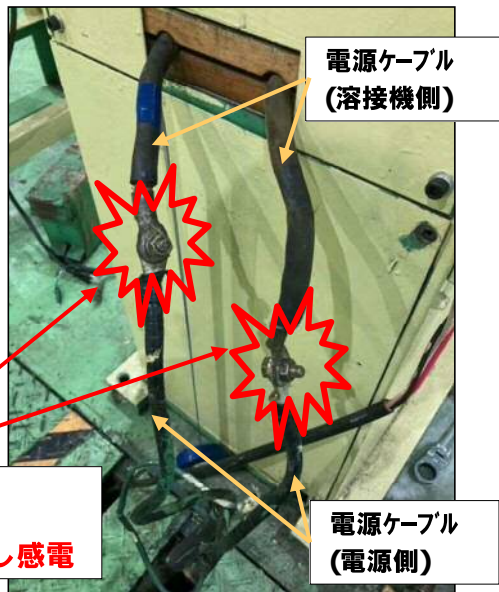
休業災害速報(社員/協力会社)

発生事業所	株式会社スチールセンター天竜事業所		発生日時	令和4年8月24日(水)15時15分頃		
発生場所	ケースヤード中央定置溶接作業場		作業区分	非定常作業		
被災者	所属	生産課	役職	一般	勤続年数	3年4ヶ月
			年齢	21才	作業経験	0年4ヵ月
	氏名	A 氏	性別	男 ・ 女	(構内経験)	(3年0ヶ月)
傷病名	両掌の火傷、右手首擦傷、背中挫滅創				休業見込み日数	不明
災害の概要	定置溶接機の電源ケーブル結線作業において、結線部に絶縁ケーブルを巻く際にケーブルに両掌が接触し感電した。					
災害状況	<ul style="list-style-type: none"> 被災者は定置溶接機の移設し、遊休状態であった電源ケーブル(AC400V)に結線する作業を開始した。 ※この時、遊休の電源ケーブルのブレーカーはONの状態であった 被災者は遊休ケーブルの絶縁テープを剥がし、テスターで検電し無電圧状態を確認した。 ※テスターの使い方に誤りがあり活線状態を確認できなかった 電源ケーブルと溶接機ケーブルの繋ぎ込みを実施し、接続部分に絶縁テープを巻こうとしたところ、両掌が接続部分に触れ感電した。 					

(発生状況の図、写真など)

【災害発生時の作業】

定置溶接機裏側



手が被覆の無い
左右ケーブルへ同時に接触し感電

2022年 9月 1日

NSMコイルセンター株式会社 関西事業所 大阪製造部

休業災害速報 (社員/協力会社)

発生事業所	関西事業所 大阪製造部		発生日時	2022年9月1日(木) 15時30分頃			
発生場所	7号 スリッターライン		作業区分	定常作業			
被災者	所属		役職			勤続年数	30年
			年齢	61歳		作業経験	1年
	氏名	A 氏	性別	男 ・ 女		(構内経験)	(1年)
傷病名	アキレス腱断裂			休業見込み日数	未定		

災害の概要 リコイラーピット周りで左足を踏み外した。

災 害 状 況	2022年9月1日(木)
	15:30頃 A班員はリコイラー周辺で梱包作業を行っていた。 リコイラーに巻き取られた製品サンプル採取後テープ止めを行った際、1本テープがとれて抜けてしまい修正を行う為、反対側に周ろうとした際、ピット縁側に左足を置いた時に、足を踏み外し左足がピットのネットにはまった。 当事者は直ぐに立ち作業を開始したが、少し痛みがあった為休憩をとっていた。
	15:40頃 B班員がA班員が休憩しているのに気が付き状況を確認したところ A班員足を踏み外したことをB班員に報告し、休憩をとらせたがA班員は暫く休憩後、作業を開始した。
	16:00頃 上長が構内パトロールを巡回中、B班員よりA班員が足を踏み外したと報告を受け A班員に確認とったところ問題なしと報告があり作業を継続、残業をおこなった。 念のために湿布を渡し足を冷やした。
	翌日、痛みがあり病院に受診すると連絡があった。
	受診の結果、アキレス腱が断裂しており、 9月5日入院、9月6日手術 入院2週間、全治3ヵ月と診断を受けた。

(発生状況の図、写真など)



矢印側より反対がわに移動する際
左足を赤丸のところに置いたときに
踏み外した。

休業災害速報 (社員/協力会社)

発生事業所	PT. INDOJAPAN STEEL CENTER		発生日時	2022年 9月 6日(火) 11時45分頃		
発生場所	大型スリッターのスクラップ巻取り機前		作業区分	定常作業		
被災者	所属	Production	役職	Operator	勤続年数	8年 0ヶ月
		Slitter Line (Group 2)	年齢	30才	作業経験	6年
	氏名	A 氏	性別	男・女	(構内経験)	(年 ヶ月)
傷病名	右目瞼切創並びに右眼球打撲				休業見込み日数	1週間

災害の概要 スリット加工時のトリムを巻取り機に誘導する際に、トリム先端が跳ね、作業者の右目瞼を切創

災害状況		11:45 作業員Aはスリッターのワークサイドでトリムを巻き取り機に誘導する為、左手でリモコンを操作、右手でトリムをガイドに通していたところ、ガイドを抜けたトリム先端が跳ねて、作業員の顔面に接触。作業員の右目瞼を切創し、右眼球に打撲発生。
		作業員A自身が現場リーダーに事故を報告。応急処置を実施。Foreman、Managementに報告。
		13:00 Foremanと総務担当者が同行して最寄りの病院に搬送し、治療を実施。
		右目瞼の切創については縫合は必要なし。右目打撲については目薬の点眼を実施。
		18:00 総務係長と安全担当係長が病院を訪問し、作業員Aの治療状況確認。 病院からは「自宅で1週間安静にした後、再度検査が必要」との指示有り。

(発生状況の図、写真など)

鋼板はJSH270C-P 4.0mm
(CSC材丸一工業向)

作業員Aは左手でリモコンを操作し、右手でトリムをガイドに通そうと作業。
ガイドを抜けたトリムが跳ね、作業員Aの顔面に接触。

・右目瞼を切創
・右眼球に打撲有り



- ・スリット加工時のトリム取扱い作業については、「保護具(フェース・プロテクター若しくは保護メガネ)着用」と2021年6月に規定していたが作業員Aは事故発生当時保護具を着用していなかった。
- ・保護具の着用(=ルール遵守)について社内での徹底を図る。

休業災害報告書(社員)

発生箇所	関西製鉄所 和歌山地区		発生日時	2022年 9月13日(火) 10時40分頃		
発生場所	2高炉 No.1 铸床集塵機バグ室下部デッキ		作業区分	修理作業		
被災者	所属	製鉄部 高炉工場	役職	班長	勤続年数	23年 5ヶ月
		炉前付帯設備管理班	年齢	41歳	作業経験	3年 3ヶ月
	氏名	A 氏	性別	男	(構内経験)	(23年 5ヶ月)
傷病名	右足首脱臼骨折				休業見込み日数	30日

災害の概要 デッキ歩行中、仮置きされた濾布降ろし口養生鉄板のズレ止め部を踏み、足を捻った

災害状況	8:00 被災者Aは、定期休風作業に向けて班全体ミーティングに参加した。
	10:30 被災者Aは、No.1 铸床集塵機の濾布交換工事の進捗確認を開始した。
	10:40 被災者Aは、バグ室内の濾布交換工事の進捗確認をするためにバグ室下部デッキを歩行中、仮置きされた濾布降ろし口養生鉄板のズレ止め部(※)を踏み、足を捻った。
	10:42 救急車を要請した。
	(※養生鉄板は、ズレ止め部を上向きにして仮置きされていた)

図1. バグ室下部デッキ(側面図)

写真1. 被災時の様子

図2. バグ室下部デッキ(平面図)

図3. 被災時の様子(足元拡大図)

2022年9月27日
日鉄精密加工(株)

休業災害速報(協力会社)

発生事業所	日鉄精密加工(株) 本社製造所		発生日時	2022年9月14日(水) 11時00分頃		
発生場所	第1工場 前工程職場		作業区分	定常作業		
被災者	所属	(株)カシワラテック	役職	職場リーダー	勤続年数	6年 7ヶ月
			年齢	43才	作業経験	6年 7ヶ月
	氏名	A 氏	性別	男	(構内経験)	(6年 7ヶ月)
傷病名	右腓骨骨幹部・遠位端骨挫傷、 右足関節前距腓靭帯(ATFL)、踵腓靭帯(CFL) 損傷				休業見込み日数	約4週間

災害の概要	切粉バツカンを引き出す作業中、切粉バツカンとフォークリフト爪の間で右足首を挟み被災した。
災害状況	7:30 被災者Aを含む11名で始業ミーティングを実施した。
	10:00頃 被災者Aはフォークリフトで職場内の切粉バツカンの回収作業を開始した。
	11:00頃 外削機KT015号機用切粉バツカン(KT015号機とKT014号機との間に設置)の回収作業に取りかかるためフォークリフトをKT014号機付近の通路に停めて降車した[図①]。
	被災者Aと作業員BはKT015号機用切粉バツカンを通路側へ引き出すため、二人で並んで切粉バツカンの縁を掴んで引っ張ったところ[図②]、床面の段差箇所(約10mm)を越えた際にその反動でフォークリフト側に振れ[図③④⑤]、切粉バツカンの車輪(鉄製)とフォークリフト爪の間で右足首を挟んだ[図⑥]。

(発生状況の図、写真など)

図①: 発生場所レイアウト

外削機 KT015号機 | 切粉 | 外削機 KT014号機

旧切粉コンベア跡の凹み | 段差約10mm | フォークリフト 停車中

図②: 切粉バツカンを通路側へ引き出す

作業員B | 被災者A

切粉バツカン
サイズ: 1,220mm × 900mm × 550mm
重量: 約450kg (ほぼ満杯であった)
車輪: 鉄製、直径130mm

図⑥: 車輪とフォークリフト爪の間で右足首を挟んだ

凹み(段差約10mm)がなければ、切粉バツカンは真っ直ぐに通路へ引き出せるが、段差を越えた反動で切粉バツカンが急にフォークリフトの方へ振れた(向きが変わった)。

図③: 段差約10mmあり

図④: バツカンの車輪

図⑤: 車輪と段差のイラスト

約10mmの段差